

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-7 聖園女学院附属聖園幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)幼稚園としての戦略	(1)-1 教育モットーの具現化	(1)-1-1 教育モットーの具現化 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、引き続き日々の祈りの中で園児に一人ひとりがかけがえのない存在であることや命の大切さを改めて伝えていく。2026年度以降は絵本や紙芝居などを保育に積極的に取り入れ具現化した提示を行い、「人間の尊厳」を意識して保育を行っている。	→ 日々の祈りを通して、命の大切さを伝える。	→ 紙芝居などの教材を使用し具現化した提示を行う。	→ 取り組みを継続する。		→	日々の祈りを通して神さまの存在を身近に感じ、手を合わせて言葉にすることでひとり一人がかかけがえのない存在であることや命の大切さを伝える。 毎日天気や季節の恵みへの感謝、社会で起きている出来事を言葉にして祈ることで興味を持ち、また病欠等で欠席している友だちの回復を祈ることで思いやりの心を育てる。			
	(1)-2 単位間連携の推進	(1)-2-1 聖園マリア幼稚園との連携 聖園マリア幼稚園と四季を感じられる活動を通して交流を持ち、姉妹園ならではの体験を行う。2025年度には年長児のプール交流を行い、2026年は年中、年少組の交流を実施し、2027年度以降は必要に応じて交流内容について検討を行う。	→ 年長組のプール交流を実施する。	→ 年中・年少組の交流を実施する。体操や歌の披露、外遊びなどを行う。	→ 取り組みを継続実施する。 必要に応じて交流内容について検討を行う。		→	2024年度に実施予定だった年長組ブルー交流は、雨天のため実施ができなかったため2025年度は事前打ち合わせを行い、候補日を複数挙げたり雨天でも交流できる計画をし交流を実施する。			
		(1)-2-2 聖園女学院高校との連携 聖園女学院と連携を取りながら女学院生徒と交流を行う。2025年度は家庭科授業の保育実習の取り組みを継続し、毎年行っている聖園女学院グラウンドでの運動会を継続して行う。2026年度は聖園女学院での春の園外保育を復活させ継続する。2027年度以降は女学院の部活動発表や本園で実施するちびっこ祭りへの参加などを検討し、実現が可能なものから実施していく。	→ 家庭科授業の保育実習を実施する。	→ 以前行っていた聖園女学院での春の園外保育を復活させ継続する。	→ 部活動発表等を実施する。		→	聖園女学院との連携を取りながら、家庭科授業の保育実習を通して、女学院生徒と園児の交流を行う。運動会や聖園祭など女学院へ訪れる機会を増やす。また、本園においても部活動の発表や交流など実施に向けて検討する。			
(2)教育・研究	(2)-1 聖園幼稚園の特色ある教育プログラム	(2)-1-1 異年齢交流 コロナ禍では控えていた異年齢交流を再開し、年長児が年少児の世話をしたり、交流の機会を増やしていく。2025年度は年長児が年少児の芋ほりの手助けを行い、2026年度は年中児が満3歳児クラスやプレ保育に訪れる子どもたちと交流を行う。交流を通して親しみを持ちながら他者を思う心を育てる。	→ 芋ほりで年長児が年少児の手助けを行う。	→ 年中児と満3歳児の交流を実施する。プレ保育等で試作したプレゼントを贈る等の交流を行う。	→ 取り組みを継続する。		→	2024年度に引き続き、保育の活動の中で年長組と年少組が交流し、芋ほりで年長児が年少児の手助けを行ったり、年中組は、プレ保育で園を訪れた未就園児に作品や歌を贈るなど交流を行う。			
	(2)-2 預かり保育の充実	(2)-2-1 預かり保育の充実 園児が楽しい時間を過ごせるよう保育内容を充実させ、保護者に安心して預けていただけるよう努めていく。2025年度に預かり保育時間や保育内容を検討する。検討を踏まえ2026年度以降、必要に応じて対応策を実施する。	→ 預かり保育時間や保育内容を検討する。	→ 必要に応じて対応策を実施する。			→	預かり保育時間や保育内容を検討する。 車で迎えに来ることができるよう、安全に駐車場を使用できる時間を検討する。			
	(2)-3 満3歳児クラスの体制強化	(2)-3-1 満3歳児クラスの体制強化 満3歳児クラスを毎年5月に開始し、少人数から始まり園児が増えていくクラスならではの手厚い保育を行い関わりを持つ。2025年度にクラス体制の在り方を検討し、2026年度は募集時期や募集方法を検討していく。	→ クラス体制の在り方を検討する。	→ 募集時期や募集方法を検討する。	→ 必要に応じて対応策を実施する。		→	満3歳児クラスの園児数を増やし、子どもたちが楽しめる充実した保育やクラス体制の在り方を検討する。			
(3)施設・設備	(3)-1 スクールバス運行事業の見直し	(3)-1-1 スクールバス運行事業の見直し 2025年度に安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討し、新入園児獲得に向けて新たなコースを開拓する。2027年度にスクールバスのリース契約終了に合わせて、小型バスを導入し園敷地内に乗り入れることを検討する。その後もバスコースの安全性と利便性を重視しながら継続して見直しを行う。	→ 安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討する。	→	→ リース契約終了に合わせて小型バスを導入し園敷地内に乗り入れることを検討する。	→ 継続的な見直しを行う。	→	安全で保護者のニーズに合ったバスコースを検討する。保護者の希望に寄り添い、できる範囲で自宅に近い、利用しやすい場所にバス停を設置していく。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-7 聖園女学院附属聖園幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(3)-2 「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-2-1 ガイドラインに基づく施設・設備の更新 聖園女学院施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。 2025年度にガイドラインに基づいた更新計画を立案し、検討結果を踏まえ、2026年度に2027年度以降の事業計画に関して予算化し、2027年度以降に実施する。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する。	事業計画を実施する。			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 社会貢献	(4)-1-1 献金 クリスマス献金を通じて困っている子どもたちがいることを知り、献金を通して人の役に立てることや命の大切さを伝える。2025年度以降取り組みを継続する。	クリスマス献金の取り組みを継続する。					世界中で困っている子どもたちのために、クリスマス献金の取り組みを継続する。			
	(4)-2 地域貢献	(4)-2-1 園庭開放 2025年度以降も園庭開放を行うことでカトリック園に触れ、幼稚園の特色を感じていただき園への理解を深めていく。2026年度以降は災害時に協力できるような関係性を築くために、イベントの継続実施や施設内の設備や備品等の見直しを行う。	イベントを行い園に足を運べる機会を増やし、園への親しみを持ってもらう。	施設内の設備や備品等の見直しを行う。				園庭開放を行うことで幼稚園の特色を感じてもらい、イベントを通して園へ興味や親しみを持ってもらう。			
(5)財政計画	(5)-1 教育環境整備を目的とした寄附金の募集	(5)-1-1 寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。2025年度に「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。2026年度に寄附金募集を開始する。	「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。	寄附金募集を開始する。				学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する。			
	(5)-2 学納金改定	(5)-2-1 学納金改定 「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。	定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。					「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ、必要な時期に学納金改定を実施する。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 組織運営	(6)-1-1 組織運営 安定的な組織運営を行うために、教員の採用活動を計画的に行い保育へ全力を注げるようにする。2025年度は養成校とのつながりを積極的に作り、2026年度以降の教育実習生の受け入れ、教員採用に繋げていく。	養成校とのつながりを積極的に作っていく。	教育実習生を積極的に受け入れ、教員採用へ繋げていく。	取り組みを継続する。			採用実績のある養成校とのつながりを積極的に作り、情報交換を行いながら学生の傾向を学びながら実習の受け入れへ繋げていく。			
	(6)-2 人材育成	(6)-2-1 人材育成 職員の専門性を向上できるよう、園内外研修に積極的に参加する。2026年度以降は園内での共有に加え、必要に応じて夏休み等に聖園マリア幼稚園と交流の場を設け情報交換を行う。	園内外研修に積極的に参加する。	必要に応じて聖園マリア幼稚園と交流し情報交換を行う。				園外研修に積極的に参加し、職員間で振り返りや共有を行い保育に生かしていく。			

*1) 評価欄は、○（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため○（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。